

2016 年度「研究者の横顔」 浜本 隆二先生

1. 研究者になろうとしたきっかけ

毎年多くの方が“がん”という疾患で亡くなっている現状に対し、少しでも“がん”に対する恐怖心をなくしていきたいという気持ちが強かった為です。また、10年ほど前に母親をがんで亡くしましたが、実際末期になると治療法の選択が無いという現実を自分自身改めて実感し、一つでも多くの薬を臨床応用することが自分の使命と考え、日々がん研究に取り組んでいます。

2. 助成研究の内容紹介

ヒストン修飾はエピジェネティクス制御において主要な役割を果たしており、ヒストン修飾異常ががんの発症に深く関与していることも、近年解明されつつあります。私はこれまでヒストン修飾の中でも、ヒストンメチル化に着目して研究を行ってきまして、がんの治療に重要なヒストンメチル化酵素及び脱メチル化酵素を複数同定してきました。本研究においては、特に大腸がん幹細胞に焦点をあて、大腸がん幹細胞の未分化性維持における、ヒストンメチル化の重要性を明らかにすることを目的としています。

3. 2の将来に繋がる結果予想・目標

ヒストンメチル化関連酵素を標的とした新規分子標的治療薬を創生し、がん根治に向けての画期的な治療法の開発を行うことを目標としております。

4. 全国の RFL 関係者に一言

この度は私の研究テーマを研究助成に採択していただきまして、誠にありがとうございました。がんで苦しむ患者さんの為に、引き続き全身全霊で研究に取り組む所存でございますので、今後とも何卒宜しくお願い申し上げます。